

# イギリスの教育動向

—— 初等・中等教育を中心に 2014年3月から2015年2月 ——

宮島 健次

(西武文理大学)

## はじめに

2015年3月現在、イギリス連立政権を率いるデビッド・キャメロン (David Cameron) 首相は、2014年7月15日に内閣改造を行った。それに伴い、これまで教育大臣であったマイケル・ゴヴ (Michael Gove) は与党内院幹事長 (Chief Whip) に事実上の降格となった。その背景にはバーミンガムの一部の公立学校でイスラム教の偏向教育を進めようとする企みに対して内務相テリーザ・メイ (Theresa May) と対立した一件があるとされているが、いずれにしても後任として、女性閣僚倍増というお題目のもと、新たに元財務長官 (Financial Secretary to the Treasury) のニッキー・モーガン (Nicky Morgan) が、女性・機会均等担当大臣 (Minister for Women and Equalities) との兼任として任命された。

彼女の公式ウェブサイトに掲載されているプロフィールによると、ニッキー・モーガンは1972年10月1日にロンドン南部のキングストン・アポン・テムズ (Kingston upon Thames) 王立特別区に生まれた。オックスフォード大学で法律を学び、2005年にラフバラ (Loughborough) 選挙区から立候補、当選するまでは、企業法専門の事務弁護士 (solicitor) としてキャリアを積んだ。現在は建築家の夫と一児 (男児、2008年誕生) の母である。

この異動に伴い、各担当大臣も変わった。学校担当大臣 (Minister of State for Schools) にはデビッド・ロウズ自民党議員 (David Laws)<sup>1</sup>、BIS (ビジネス・イノベーション・スキル省: Department for Business, Innovation and Skills) とDfEの2つの省が相乗った、スキルと平等担当大臣 (Minister of State for Skills and Equalities) にはニック・ボウルズ保守党議員 (Nick Boles)<sup>2</sup>、学校改革担当大臣 (Minister for State for School Reform) には元学校担当大臣のニック・ギブ保守党議員 (Nick Gibb)<sup>3</sup>、子ども・家族担当政務官 (Parliamentary Under Secretary of State for Children and Families) にはエドワード・ティンプソン保守党議員 (Edward Timpson)<sup>4</sup>、学校担当政務官 (Parliamentary Under Secretary of State for Schools) にナッシュ卿 (Lord Nash)<sup>5</sup>、女性と平等担当政務官 (Parliamentary Under Secretary of State for Women and Equalities) にジョー・スウィンソン自民党議員 (Jo Swinson)<sup>6</sup>、チャイルドケアと教育担当政務官 (Parliamentary Under Secretary of State for Childcare and Education) にサム・ジイマー保守党議員 (Sam Gyimah)<sup>7</sup>、がそれぞれ就任した。

これまでコスト・カッターとして名を馳せ、前労働党政権による教育改革以前の教育システムの復古を目指したゴヴ氏の事実上の大臣更迭は、当然のことながら賛否両論ある。ゴヴ氏の更迭に対する賛成派は、例えば3月26日に教員に対する公的年金の引き下げを断行したゴヴ元大臣の辞任を促すためのストライキを敢行、反ゴヴ政策を掲げたデモを行った全国教職員組合(National Union of Teachers : NUT) や英国教職員組合 (Associations of Teachers and Lecturers : ATL) などがあげられるだろう。NUTは教育大臣に就任するニッキー・モーガンに対して、教職員年金政策の反故を緊急に申し入れるなど、政治的アクションをさっそく起こしている。逆に彼の更迭を嘆くものとしてはOfstedの主任勅任視学官のマイケル・ウィルショウ卿 (Sir Michael Wilshaw) があげられる。彼はLBCラジオのインタビューで「わたしにとって (ゴヴ) 大臣は非常に大きな存在であり、彼のおかげでこれほどまでに急進的な改革がなされてきたと思う」<sup>8</sup>と彼が去る悲しみを語っている。

これら各大臣の交代はイギリスの教育動向にどのような影響を与えたのであろうか。果たしてモーガン新大臣はゴヴ前大臣の政策をそのまま引き継ぐのであろうか。本稿では以上の問題意識を持って、イギリス教育の動向、特に初等中等教育の動向をみていくことにしたい。

\* 追記—— 2015年5月7日に行われた総選挙の結果、保守党が単独過半数を得、キャメロン政権の継続が決まった。ニッキー・モーガンも教育大臣を続投することになった。ちなみにマイケル・ゴヴは、内閣への復帰を見事果たし、法務大臣への就任が決まった。

では、いつものように、イギリス政府のウェブサイト (Gov.uk) から教育省 (Department for Education : DfE) に関わる政策およびそれらに関するプレス・リリースからその動向を探っていくことにしよう。

表1は2014年3月から2015年2月末日までに公表された政策文書とプレス・リリースを政策別に集計したものである。「継続教育とスキル訓練の質向上 (Improving the quality of further education and skills training)」は、すべての関係省庁の数では89件と非常に多いが、これはビジネス・イノベーション・スキル省 (BIS) が主たる所轄省だからである。同様に「恵まれない子どもの到達度の向上 (Raising the achievement of disadvantaged children)」はDeputy Prime Minister's Office (DPMO)、「校舎の費用対効果向上 (Making the construction and maintenance of school buildings more cost-effective)」はEducation Funding Agency (EFA)、「すべての子どもに健康な生活を」はPublic Health England (PHE) やDepartment of Health (DH)、「家族の司法制度の効果向上 (Making the family justice system more effective)」はMinistry of Justice (MOJ)、「学校視察制度と児童サービスの効果向上 (Making inspections of schools, colleges and children's services more effective)」はOffice for Standards in Education (Ofsted) との相乗り、ということで件数が多い。そこで、教育省が単独で取り扱う政策課題に関する政策文書および報道資料でランキングをつけてみた。

これを見ると、「学校後のより良い人生を迎えられるような資格制度・カリキュラム改革 (Reforming qualifications and the curriculum to better prepare pupils for life after school)」が最も多く26件、次に「若者の機会増加と潜在能力開発支援 (Increasing opportunities for young people and helping them to achieve their potential)」が14件、続いて「教授の質とリーダーシップの向上 (Im-

表1 2014年3月から2015年2月において Gov.uk にて公表された各政策別の政策文書 (policy paper) および報道発表数 (press release)

政策名	すべての関係省庁			教育省のみ		
	政策文書	報道発表	合計	政策文書	報道発表	合計
資格制度・カリキュラム改革		31	31		26	26
若者の機会増加と潜在能力開発支援	2	23	25		14	14
教授の質とリーダーシップの向上	1	18	19	1	12	13
養子制度と児童福祉サービスの改善		15	15		13	13
0から5歳児までの教育の質向上	2	14	16		11	11
アカデミー、フリー・スクールの増設		10	10		9	9
授業態度と出席状況の改善		8	8		8	8
特別支援教育の改善		7	7		6	6
恵まれない子どもの到達度の向上	1	14	15		5	5
校舎の費用対効果向上		15	15		5	5
ソーシャルワーカーの支援	1	3	4	1	3	4
すべての子どもに健康な生活を	2	22	24		3	3
継続教育とスキル訓練の質向上	15	74	89	2	1	3
スポーツの推進	2	7	9		2	2
学校視察制度の効果向上		44	44		1	1
貧困の減少と社会正義の実現	2	6	8	1		1
家族の司法制度の効果向上	7	27	34			0
学校の説明責任の明確化と財政健全化		4	4			0
活気あふれる持続可能な芸術と文化の支援		4	4			0
学校外教育活動の改善		1	1			0
総計	35	347	382	5	119	124

(Gov.uk のサイトから筆者が独自に集計)

表2 連立政権成立以降、政策文書・報道発表で取り上げられた政策ベスト5

2010年3月～		2011年3月～		2012年3月～		2013年3月～		2014年3月～	
アカデミー、フリー・スクールの増設	1位 5件	アカデミー、フリー・スクールの増設	1位 12件	養子制度と児童福祉サービスの改善	1位 16件	教授の質とリーダーシップの向上	1位 19件	資格制度・カリキュラム改革	1位 26件
校舎の費用対効果向上	2位 3件	教授の質とリーダーシップの向上	2位 9件	教授の質とリーダーシップの向上	2位 13件	養子制度と児童福祉サービスの改善	2位 14件	若者の機会増加と潜在能力開発支援	2位 14件
資格制度・カリキュラム改革	2位 3件	資格制度・カリキュラム改革	3位 7件	0から5歳児までの教育の質向上	3位 10件	資格制度・カリキュラム改革	3位 12件	教授の質とリーダーシップの向上	3位 13件
養子制度と児童福祉サービスの改善	2位 3件	0から5歳児までの教育の質向上	4位 6件	アカデミー、フリー・スクールの増設	4位 8件	アカデミー、フリー・スクールの増設	4位 9件	養子制度と児童福祉サービスの改善	3位 13件
0から5歳児までの教育の質向上	5位 2件	養子制度と児童福祉サービスの改善	4位 6件	特別支援教育の改善	4位 8件	0から5歳児までの教育の質向上	5位 7件	0から5歳児までの教育の質向上	5位 11件
継続教育とスキル訓練の質向上	5位 2件	授業態度と出席状況の改善	6位 5件	授業態度と出席状況の改善	6位 5件	学校の説明責任の明確化と財政健全化	5位 7件	アカデミー、フリー・スクールの増設	6位 9件

(Gov.uk のサイトから筆者が独自に集計)

proving the quality of teaching and leadership)」、「養子制度と児童福祉サービスの改善 (Improving the adoption system and services for looked-after children)」が13件となっている。

表2は、2010年3月から2015年2月までの5年間で、教育省のみに関わる政策のうちに、どれが最も話題提供されたのかを示したものである。周知の通り、2010年5月の総選挙でそれまでの労働党政権に変わり、保守党・自由民主党の連立政権が発足した。つまり、このランキングは保守党によるイギリス教育改革がどのような優先順位をもって行われてきたのかを表しているといえるだろう。

こうして並べてみると、連立政権発足当初はアカデミーやフリー・スクールの増設、校舎の費用対効果などいわゆる教育ハードの充実が中心であったのが、次第に教授の質向上など教育ソフトの充実へシフトしていき、さらに今年1年間は教育成果とも言うべきアウトプットへと移っていくのがわかるだろう。このように捉えると、今年度1位となった「資格制度・カリキュラム改革」という政策は、教育成果を高めるための重要なしかけとして位置づけられることがわかる。それでは具体的に昨年一年間のイギリス教育界ではどのような話題がとりあげられたのか、見ていくことにしよう。

## 1. 資格制度・カリキュラム改革 (26件)

### ■ 2014年

- 3月13日 ▶ **「教育大臣、ビッグ・バン・フェアを打ち上げ」**——本日、教育大臣エリザベス・トラス (Elizabeth Truss) は若者に向けたイギリス最大の理系の祭典 (サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、数学) に来場した観客を歓迎——バーミンガムでのビッグ・バン・フェア起ち上げ集会で、教育大臣はイギリス経済における数学と科学の価値を改めて確認し、これらの科目がどのような意義を持つのかを想像力豊かに表明するこのイベントを賞賛した。
- 4月9日 ▶ **「2016年GCSEに新たな芸術系科目が導入」**——教育大臣マイケル・ゴヴ (Michael Gove) は、本日、2016年9月に導入予定の、従来より厳格で実際的かつ世界レベルの新しいGCSEとAレベルに適するように、いくつかの芸術関連科目は改善されるであろうと告知——GCSEレベルでは、芸術系科目はアート・デザイン、音楽、ドラマ、ダンスの各科目である。他の5つの科目——シティズンシップ、コンピュータ・サイエンス、デザイン・アンド・テクノロジー、体育 (PE)、宗教研究 (religious studies) もこの工程表にそって改善される。
- 4月15日 ▶ **「ゴヴ、アマンダ・スピールマン女史 (Amanda Spielman) のOfqual長官再任を歓迎」**——教育大臣マイケル・ゴヴは本日、アマンダ・スピールマンの再任 (5年) を発表——アマンダ・スピールマンは2011年にQCA、QCDA (Qualifications and Curriculum Development Agency) を改組したOfqual (the Office of Qualifications and Examinations Regulations) 初代長官である。
- 7月1日 ▶ **「水準向上を目的とした、イングランドを縦断する32の数学ハブ校のネットワーク構築」**——日本やシンガポール、中国などの東アジアの国々に匹敵する到達度を実現すべく、全国的な数学ハブのネットワークが本日、教育大臣エリザベス・トラスによって起ち上げられた——トラスは英国中の学校を結びつけ各地域の学校のモデルを供給する、いわゆる「ハブ」となる32校の学校・アカデミーの名前を上げた。これらの学校が世界をリードするアジア流の数学学習方法を実行し、学習ペースをセットする役割を担う。
- 7月10日 ▶ **「学校革命——どのように革命は学校を変えているか」**——本日、教育省は過去4年間に渡るイギリスの学校風景を一変した主要な教育改革を詳述した映像を発表——映像のタイトルは「学校革命」、改革の先導役を果たしたり、改革の最前線にいたり、改革の恩恵の証人であったりする校長や教師、学校理事、教育評論家らによるコメントを含んでいる。

- 7月14日 ▶「**初等学校の新テストは読み書き能力と数的能力の欠如を根絶するのに有益**」——7歳児と11歳児をサンプルにしたテスト結果は、読み書き計算能力の高い水準が期待できるものとなった——数学と国語で新規に導入されるテストは、読み書きができずに学校を卒業する子どもがひとりもでないようにし、同時に確固たる数学の基礎力を身につけさせる、という政府の目的を達成するだろうと本日、教育大臣エリザベス・トラスは言った。
- 8月13日 ▶「**学校現場、生徒への課題提示の新しい方法を開発・共有するための予算を獲得**」——学校は複雑なレベル/システムに変わる新たな課題提示のパッケージをデザインする——本日（2014年5月1日）政府により明らかにされたこの新しい課題提示方法は、教師のための教師による開発がなされる。新方式——それらのうち一つは教室内で利用されるアプリ——は学校現場に、簡単に正確な生徒の到達度および進捗度のチャートを提示し、支援が必要で目印となる生徒をあぶり出すことを効果的にする。そして保護者にも子どもたちのパフォーマンスと伸び具合に関するより明確な情報を提示するだろう。
- 8月14日 ▶「**数学と科学に変更する生徒数が増加**」——教育大臣ニッキー・モーガン（Nicky Morgan）は本日発表された若者のAレベル試験結果を祝福——本日、資格合同委員会（Joint Council for Qualifications : JCQ）が発表したAレベル試験結果によると、将来の安定した高給の職業につながり失業への不安を軽減させてくれる科目の受験者が増加していることがわかった。
- 8月21日 ▶「**1000人以上が正しいタイミングでGCSEを受験した結果、より高い全国平均に**」——政策変更後、15歳のGCSE試験結果で、A\*からCの取得率が上昇——本日示されたGCSE試験結果によると、今年度正しいタイミングで1000人以上多くの生徒が受験したことで、全国平均が上昇していることが明らかになった、と学校改革担当大臣ニック・ギブ（Nick Gibb）は言った。生徒と教師の努力をたたえつつ、ニック・ギブは、2年間のGCSEコースを履修する前にGCSE試験を受験する15歳あるいはそれ以下の生徒たちのエントリー数が40%も低下したことを指摘した。その結果、早期エントリーによる試験結果に与える影響が劇的に変化し、15歳でA\*あるいはAの取得率が5%増加し19%に、A\*からCの取得率が10%上昇し68%となった。
- 8月28日 ▶「**初等学校の試験結果：すべての科目で全国平均が上昇**」——5年前に比べて8万人以上の児童が中等学校で確実に読み書き計算ができるようになった——学校改革担当大臣ニック・ギブは本日、11歳時に受験した読みと書き、数学の試験結果が向上したことを受けて、児童・生徒と教師の努力をたたえた。
- 9月4日 ▶「**新カリキュラムが作る我が国の教育システムに世界中から羨望の眼差し**」——新学期開始と同時に教室に帰ってきた何百万もの生徒たちは、今学期から先進的で知識豊富なナショナルカリキュラムをもとに教授され、現代のイギリスで成功するための知識とスキルを与えられるだろう、と学校改革担当大臣ニック・ギブは述べた。
- 9月9日 ▶「**言語教授訓練に180万ポンドの補助金**」——外国語教育への支援として、教師トレーニングへの支援プログラムとして180万ポンドの補助金を拠出——教育大臣ニッキー・モーガンが本日告知した内容によれば、この180万ポンドの政府補助金によって設立された新しい学校導入プログラムのおかげで、何千もの教員たちが外国語教授法の改善に向けて追加の訓練や支援を受けることができるようになる。
- 9月25日 ▶「**バーミンガム教育委員に大物が着任**」——教育大臣ニッキー・モーガン



は、マイク・トムリンソン卿 (Sir Mike Tomlinson) はその長い教育経験をこの重要な役割にもたらすだろうと言う——本日、教育大臣ニッキー・モーガンは、バーミンガム教育委員会の新委員に前勅任視学官マイク・トムリンソン卿を任命したことを発表した。

- 9月25日 ▶「**調理と栄養学が新たにGCSE科目に**」——生徒は実務経験と食物と栄養についての真の理解を得ることになる——新しいGCSE科目となった調理と栄養学は2016年9月から新たに改訂が加えられたGCSE科目であるデザインとテクノロジーとともに学校現場で教えられることになる。その結果、各科目を履修する生徒たちは非常に高品質のコースによる利益を得ることができるだろうと学校改革担当大臣ニック・ギブは述べた。新しいGCSEは食物と栄養の背後にある科学的な原理の適切な理解と調理の準備や実践的な調理技術の獲得を要求する。
- 10月23日 ▶「**教育のための計画：アカデミック科目低調の改訂**」——GCSEにおける英国バカロレアへの挑戦数が増加——政府によるGCSE改革は、英国バカロレア科目に挑戦する者が増加したことでアカデミック科目に関する資格取得者数の減少から増加へと転じさせたことが本日発表になった統計で明らかとなった。2013年度から14年度にかけて公営学校の暫定的なGCSE試験結果において、3.2%上昇の38.7%の生徒が科学や歴史、地理学などの英国バカロレア科目を受験し、23.9% (1.1%上昇) がその基準に達した。
- 11月4日 ▶「**上海との数学交換の先駆けとなる優秀な教員たちが来英**」——教師主体の交換プログラムの一環として、中国トップの数学教師たちがイギリスの小学校で彼らの世界レベルの数学の教授法を共有し、水準向上に手助けするために数日を過ごす。
- 11月7日 ▶「**信仰グループによる新しいアカデミックな宗教研究科目がGCSEに**」——宗教における信仰をより広くかつ深く開発するために宗教科目2科目の履修が必要——すべての主要な教会及び信仰グループが認定した新しいアカデミックなGCSEの宗教研究についての提案によれば、生徒たちは宗教科目2科目が必修となる。生徒たちがイギリス文化における宗教の中心的役割を強く理解することは政府の教育プランの重要なパートを担っている。
- 12月5日 ▶「**新たに高品質なポスト16歳の数学資格が導入**」——学校改革担当大臣のニック・ギブは16歳以降の数学の学習をより進めるために新たに6つのコア数学資格を導入することを告知——現実の世界で数学をどのように使い、適用していくか、ということを生徒たちに教える新たな高品質の数学資格は、何千もの生徒たちが16歳以降も数学の学習を続けていけるようにデザインされたのだ、とニック・ギブは言う。教科目の水準向上を目指す政府の関与の一環として、この6つのコア数学資格は2017年からスクールとカレッジのパフォーマンス・テーブルに含まれることになる。2016年からは技術バカロレア (Technical Baccalaureate) の指標となる。
- 12月7日 ▶「**学校で生徒たちが成功するとその経済効果は1億3千万ポンド**」——教育パフォーマンスの価値が国家経済に与える影響に注目——2010年からGCSEで良い成績をおさめる生徒が増えたことで、その経済効果は1億3千万にのぼるとGCSEの成果が広く財務的な影響を持っている程度を明らかにする画期的な研究が発表された。重要な英語、数学資格を含んで5科目以上A\*からCを取得した場合は、個人の生涯の生産性に対しておよそ6千万ポンドの価値になるという。その結果、2010年からそのような生徒が非常に多くなったことを鑑みると、おおよそ国家経済に1億3千万ポンドの経済効果をもたらすと見積もられている。

## ■ 2015年

- 1月 8日 ▶「**“人生を変える” お金が恵まれない子どもたちの利益に**」——100万ポンドを超える補助金が、早期教育ピュービル・プレミアムを実行に移すために第一グループの地方当局に分与——今週より、恵まれない子どもたちが高品質の早期教育を受けられるよう政府の新しい補助金が7つの地方当局、ブラックプール、ブリストル、ケンブリッジシャー、ノース・ヨークシャー、ノーサンプトンシャー、ハックニー、ストーク・オン・トレントに分け与えられる。
- 1月26日 ▶「**高品質でより厳格になるGCSEとAレベル試験の芸術科目**」——教育大臣ニッキー・モーガンはGCSEとAレベル試験の芸術科目とGCSEのコンピュータ・サイエンスをより厳格にするよう最終的な内容をつめている——芸術教育の質を向上するための関与の一環として、GCSEの音楽、芸術とデザイン、ダンスと体育、Aレベル試験のダンス、音楽、体育をより厳格かつ実践的にするような最終段階の内容が本日出版された。新しい内容は生徒たちに芸術における知識や習得しなければならない技術を備えさせることに加え、自らの創造性や自己表現および彼らのイギリス文化の遺産の理解を広げていくことに役立つだろう。
- 1月29日 ▶「**2010年と比較して9万人以上の生徒がGCSEのアカデミックコア科目を受験**」——史上最も多くの女子がAレベル試験の数学と物理を受験——本日発表になった統計によれば、政府の教育プランによって、GCSEのアカデミックコア科目の受験者数が劇的に増加した。新しく発表になったパフォーマンス・テーブルによれば、2010年に比べて9万人以上もの生徒が英国バカロレアに挑戦した。これはこの4年間で71%の増加である。
- 2月12日 ▶「**GCSEとAレベル試験改革の詳細が発表**」——シティズンシップ研究 (citizenship studies)、演劇 (drama)、食品調理と栄養学 (food preparation and nutrition)、宗教研究 (religious studies) ——専門家によって監修され、生徒たちが現代のイギリスで人生を過ごしていくことを準備するようにデザインされた新しいGCSEの内容が本日出版された。政府はすでに雇用主や大学が要求する知識や理解を生徒に与える一連の資格の改善を行ってきた。
- 2月23日 ▶「**上海との数学教師交換プログラムの第2局面開始**」——教師たちは、交換プログラムの第一局面に参加した学校で上海メソッドはすでに水準を向上したと報告——全国の初等学校の教師は、今週よりイギリスに到着した上海のトップ教師第2陣から、彼らの世界レベルの数学教授法と教科の水準を向上するアプローチを共有することができることになる。
- 2月25日 ▶「**レベルなしの評価をするための委員会が発足**」——教育省はレベルを取り除こうとする学校を支援するためにレベルなしで評価する委員会を立ち上げた——本日の発表によると、教育省はレベルなしで評価することに関する委員会を組織した。この委員会はレベルを取り除く新しい評価システムを実践しようとする初等・中等学校を支援することになる。レベルなしの評価に関する委員会は、評価に関するベスト・プラクティスを明確にし、全国の学校と共有する。そして彼らは効果的な評価システムに関する情報に基づく選択をするための情報を持っていることを確認するだろう。委員会は多くの学校ですでに実践されている偉大な仕事をあぶり出し、評価に関する実践においてより広範囲にイノベーションを引き起こし、成功に導くだろう。
- 3月 1日 ▶「**学校の成功は14万ポンドを賃金に加えるという研究報告**」——学校で良い

成績を取ることの重要性を強調——40万人超を対象とした教育の経済効果を分析した調査によると、学校での成功が平均して14万ポンドほどの収入を増やすことがわかった。英語と数学を含むGCSE5科目でA\*からCを取得すると、その後の人生に8万ポンドが加えられる。さらにAレベルを少なくとも2科目取得すると6万ポンドが加わる。学校での成功から知識や自信、雇用可能性などの経済的価値を増すからである。

## 2. 若者の機会増加と潜在能力開発支援 (14件)

- 3月26日 ▶「**何千もの16歳、17歳の若者が教育や訓練を受講**」——スキルと企業担当大臣マシュー・ハンコック (Matthew Hancock) は本日、新しい統計が3万5千人の16歳、17歳の若者が教育を受けたり、訓練を受けたりしているということを示していることを称賛した——地方当局の統計は以下を示している。
- 1年前、16歳、17歳の若者の87.9%が教育および訓練に参加していたが、現在は89.8%、これは35,482もの若者に相当する。
  - 4分の3以上の地方当局が教育を受けたり訓練を受けたりする16歳、17歳の若者が前年より増加したと報告している。
- 6月18日 ▶「**14歳から16歳の職業教育を強化するテック・アワード (Tech Awards)**」——政府はGCSEと共に学習できる厳密な技能資格 (technical qualifications) の導入を発表した——我々はGCSEに沿った新しい職業資格の基準を導入する。これらの新しく、厳密で、入念なテクニカル・アワードは、若者が労働世界への準備がしっかりできるような仕様にされなければならないだろう、とスキルと企業担当大臣マシュー・ハンコックは本日告知した。
- 6月25日 ▶「**この20年間で最低のニート率**」——新しい統計は記録を取り始めて以来16歳から18歳の教育、雇用、訓練への参加率が最高になったことを示す——本日発表になった統計によると、16歳から18歳のニート率は20年前にこの記録を取り始めて以来最低になったことがわかった。統計は同時に、16歳から18歳のニートの数が2009年の終わりの4分の1以上低下したことを示している。教育大臣マイケル・ゴーズは、この数の低下は政府による教育と訓練への関与の結果だと確信する。
- 6月26日 ▶「**政府、黒人の生徒の学習支援を改善**」——統計はアカデミー・プログラムが黒人の生徒たちの結果を向上させるのに一役買っていることを示す——最新統計によれば、政府の教育改革がいかに黒人の生徒たちの水準向上が他のエスニック・グループよりも急速であることに寄与しているかを示している。黒人の生徒たちはもう何年もイギリスの学校のエスニック・グループの中で最低のパフォーマンスであった。しかし教育省の統計によれば、2010年以降、彼らとその他の生徒たちとのギャップは初等学校テストとGCSEの両方で縮まっており、他の様々な背景を持つ子ども達の中で最も大きな成果を達成していることがわかる。
- 6月26日 ▶「**親の最高の学校選択を補助する生徒の進学先データ発表**」——新しい統計は、若者がスクールやカレッジを終えた後何をしているかを明らかにしている——本日発表された政府の新しいデータのおかげで、保護者と生徒は自分自身で、彼らのスクールとカレッジからどれだけトップの大学に進学したかということを含め、学校がどれだけ彼らの潜在力を伸ばすことに成功したかを知ることができる。



- 7月 4日 ▶「**学校を離れた多くの若者が見習い研修制度 (apprenticeship) を選択**」——新しい統計は、昨年に比べ何千もの多くの16歳、17歳の若者が見習い研修制度を具体化していることを示している——地方当局が発表した新しい統計によると、この1年で15%以上の学校から離れた若者が見習い研修制度を利用していることを明らかにしている。データは、現在ではビジネスの現場で必要とされる実践的な技能と経験を開発してくれる本物の仕事と訓練を提供する見習い研修制度が16歳と17歳の若者の間でますます広く一般化されていることを示している。
- 7月22日 ▶「**政府は公営学校の最優秀な生徒をもっと伸ばすための基金の設立を約束**」——スクールとカレッジは、政府が新たに発表した基金の設立によって、2016年以降もAレベルを4科目以上あるいはそれに相当する成績を修めた生徒に対して奨学金の貸与を継続することができる。Aレベル4科目あるいは拡大技術バカロレア・プログラム (large TechBacc programmes) に合格した生徒に対する奨学金は、スクールとカレッジがコースのサイズを反映して基本となる奨学金レートに上乘せられて支給されることになる。
- 8月21日 ▶「**ニートの数が9年減少**」——イギリスのニートの数は昨年の同時期と比べると12万5千人減少した——本日発表された統計によれば、イギリスのニートの数はこの9年で最低を示した。16歳から18歳のニート数は過去最低であった。16歳から24歳のニートは2014年4月から6月期では、2005年と比べると最低レベルであった。10代の若者のニート率は2000年に統計を取り始めて最も低いレベルとなった。
- 9月25日 ▶「**フォニックスを取り入れたリーディング・チェックに10万人**」——フォニックス・チェックの結果、多くの生徒はよくやっている——本日発表になった統計によると、フォニックスを取り入れたリーディング・チェックの導入から3年が経過したが、10万人以上の子どもたちが素晴らしい読者になるよう現在もそのチェックを受けていることを示している。Year1の全生徒を対象にしたチェックは生徒たちに読み方の学びが正しく進んでいることと同時に、教師たちにその歩みに遅れることの危険性を識別させることを確実にする。
- 10月 2日 ▶「**学校から離れても大勢が教育機関や訓練機関に所属**」——新しい統計は、多くの若者が雇用主が要求する知識や技能を得ていることを明らかにしている——技能大臣ニック・ボウルズ (Nick Boles) は学校を離れたものの多くが16歳以降も教育や訓練機関に所属していることを表した統計を歓迎した。以前の若者は企業や大学が望む知識や訓練あるいは経験なしで学校を離れてしまうことが非常に多かった。しかし現在では16歳になるまでは何らかの教育機関あるいは訓練機関に所属しなければならないというようにルールが変わった。その結果、本日発表された統計は、全国の何千もの人々に本物の衝撃を与えたのである。
- 12月 8日 ▶「**学校による生徒の性格形成を支援する方法が告知**」——学校対象の退役軍人サービス・プロジェクトとその成果に対する褒賞として100万ポンドもの基金の設立が告知された——教育大臣ニッキー・モーガンは恵まれない子供たちの人生を好転させるような退役軍人サービスが運営するプロジェクトなどを含む子どもたちの性格形成を支援する一連の方法を告知した。退役軍人たちの価値観や専門知識を利用することで、若者がよりよい学校生活を送れるようにし、彼らに自信や尊敬、リーダーシップなどのような価値観を含んだ性格を形成していけるように、およそ5百万ポンドの予算がつけられた8つのプロジェクトが学校で実施される。

- 12月10日 ▶ **「学校の新たなキャリアと企業」**——企業経験者の団体によって生徒たちにインスピレーションと教育が与えられる——教育大臣ニッキー・モーガンは学校のための新たなキャリアと企業の設立を発表した。この団体によって若者のためのキャリア教育の準備やアドバイスの提供の仕方が一変され、若者たちは労働の世界が提供する機会について想いを巡らすことができるようになるだろう。
- 12月10日 ▶ **「最高品質の技能資格と職業資格を発表」**——オプションの範囲と質がこれまで以上に新科目が明らかにされた——生徒たちは本日発表された新科目によって最高品質の技能資格・職業資格にこれまで以上にアクセスしやすくなる。エンジニア、ホスピタリティ、建築、ソーシャル・ケアなどを含む幅広い職業が資格リストに含まれている。本日発表された文書は、2011年にアリソン・ウルフ教授 (Prof. Alison Wolf) が答申した職業教育の主要な改革の最終段階となる。その答申では現在の16歳から19歳の職業教育は若者にとってほとんど価値のないものと指摘されていた。

## ■ 2015年

- 1月27日 ▶ **「多くの若者が教育機関や雇用、あるいは訓練機関に継続して所属」**——政府は本日、6カ月前倒して、これまで関与してきた若者の進路に関する年次データを公表した——そのデータによると、2012年10月から2013年10月の間、前年の89%から上昇し91%の生徒、合計して6,500人がキー・ステージ4修了後（通常は16歳）教育か雇用か訓練かの3つのうちいずれか一つを継続している。多くの若者が、さらなる研究学習や社会に出て働くための準備をしてから教育機関から離れるように仕向けることは、政府の長期的な経済計画に不可欠である。

### 3. 教授の質とリーダーシップの向上 (13件)

- 4月10日 ▶ **「イギリスの学校で新たに教員9,000人増加」**——このたびの新しい統計は、イギリスの教員数の増加を示している。このことは教職が、大卒者が選択するキャリアとなったことを意味する——教育省の統計によると、2013年11月の時点で、前年と比較して9,100人の増加である45万1,100人の正教員がイギリスにいることを明らかにした。教授の質も同時に向上している。96%の教員が現在では学位を一つあるいはそれ以上を取得している。このことは2010年以降、教室には43,000人余りの学位レベルの資格を持った教員がいる、ということである。前回発表された統計では、現在教職の訓練を受けているものの74%が少なくとも2.1学位を取得している。2010年には61%だった。
- 4月17日 ▶ **「校長基準のレビュー」**——校長に対する基準はこの10年で初めて更新される——ますます多面的になる学校システムを反映するように、新しい校長に対する基準がレビュー対象となったことが本日、教育省から発表された。多くの理事会は2004年に改定された現在の基準を校長の公募活動やパフォーマンス評価に利用している。更新される基準は専門職を重要視する校長や理事などを含む小集団によって、アカデミー・トラストの下で複数の学校で校長を務めたり複数の団体のリーダーを務めたりするなど、学校のリーダーシップの本質の変化に対する

責任を持てるようデザインされるであろう。

- 5月 1日 ▶「**教職初任者研修コースに関する独自レビューが公表**」——アンドリュー・カーター (Andrew Carter) は教職初任者研修コースの質と効果をレビューする座長に任命された——本日、教職初任者研修コースの質と効果についての独自レビューが教育大臣マイケル・ゴヴによって公表された。
- 6月 6日 ▶「**初等学校の優秀な教員は16万人もの児童の利益**」——デビッド・ロウズ (David Laws) は740万ポンドを投じ、将来の初等学校のリーダーの育成に乗り出すことを発表——デビッド・ロウズが発表したように740万ポンドが将来の初等学校のリーダー育成に投じられれば、指定初等学校 (challenging primary school) の10万人以上もの子どもたちは特別に訓練された教員から追加の支援を受けることができるだろう。ティーチング・リーダー・プライマリーと呼ばれるこの計画は、初等学校の教員、いわゆるミドル・リーダーを対象としている。彼らはすでに指定学校で潜在的な傑出したリーダーになるべく働きつつ、そこで2年間の厳密な訓練プログラムを受け、技能や生徒との関わり方などの開発に勤しんでいる。
- 6月18日 ▶「**傑出した優秀アカデミーの校長たちが校長会に参加**」——160人も超える校長たちが全英のアカデミーを支援する新地域学校委員 (new regional schools commissioners) に応募した——160名を超える優秀アカデミーの校長たちが全英の4,000校にも及ぶアカデミーを支援する新地域学校委員に応募した。新校長協議会 (new head teacher boards) のノミネートは6月13日に締め切られた。本日発表になった応募総数は164人の校長たち。選抜は6月23日から始まり、7月11日に終了する。
- 7月17日 ▶「**学校繁栄の支援にトップアカデミーの校長たちが選出**」——1,600人の校長が委員の選挙に参加——教育省は8つの新しい地域学校委員として互選で選ばれた32名の校長名を発表した。1,600人以上の校長たちが9月から始まる校長協議会 (headteacher boards : HTBs) の委員の選挙に投票した。6人から8人で構成される新しい協議会はアカデミーの新設場所や不振にあえいでいる少数のアカデミーの失敗の原因を特定するなどアカデミーの自由のために活動する。
- 10月 3日 ▶「**ティーチング・アシスタントに関する基準のレビュー開始**」——独自のレビューが打ち立てる新しい一連の基準の中で、ティーチング・アシスタントの社会的地位と職業意識が確立される——レビューは、現行の一連の基準を、既存の学校システムの多様性を反映したより明確でより簡潔なバージョンに置き換えることを目的とし、実施される。
- 10月28日 ▶「**ティーチング・アシスタント基準レビュー：情報提供受付中**」——ティーチング・アシスタントの職業意識の新しい一連の基準の開発につながる幅広い視点が求められている——本日からティーチング・アシスタントの職業意識の新しい一連の基準を創り出すために、全国的なレビューの一部として教育職への従事者、組合員、保護者、その他一般人に対しても、自らの視点を述べるよう求められている。
- 10月31日 ▶「**STRB (教職員レビュー委員会)：学校教職員に対する2015年度の報奨金に関する政府からの情報**」発行 (政策文書)
- 11月27日 ▶「**一流大を成績優秀で卒業した者による教職課程でのトレーニングが記録的なレベルに**」——最新の初任者研修 (Initial Teacher Training : ITT) に関する調査によると、教職に就くべく訓練を受けている一流大卒者が増加した——本日明らかになった公式統計によると、教員訓練を受けている一流大卒者が記録的なレ

ベルである。初任者研修調査の年次報告によると、今年度の訓練課程履修者の6分の1（17%）が一流大の学位を修得、そしてそのうちの3分の2（73%）が2等級優等学位上位それ以上であるなど、これまでで最も高い割合を示している。

12月 9日

▶ **「世界レベルの教育職を支える新しい規準」**——学校での教育や職業意識開発を改善する新たな独自の計画が明らかになった——本日、教職の最高水準を代表する独立した専門職団体の新たな設立を支援する計画が教育大臣ニッキー・モーガン、学校担当大臣デビッド・ロウズによって明らかにされた。この国にはすでに世界レベルの教員がいる。彼らは学校において水準を上げると同時に、背景がどのようなものであれ、どの子どもたちにも現代イギリスで生きていく準備を手伝っている。しかし、連立政権はこのような彼らを更なる高みへ誘うよう介入するのである。

12月11日

▶ **「政府はSTRBの一員として新たに経済委員を任命」**——マンチェスター大学のケネス・クラーク（Kenneth Clarke）が教職員レビュー委員会（STRB）の経済委員に任命された——マンチェスター大学のケネス・クラークがSTRBの経済委員として3年間の任期で任命された。STRBは独立した外部機関であり、イングランドとウェールズの教職員や学校リーダーへの給与や状況について政府にアドバイスする。

## ■ 2015年

2月11日

▶ **「有能なサービス出身者の教職への就業を勧誘」**——「軍隊から教員へ」プログラムの拡大は退役軍人たちに教室でのキャリアを積むべく学校ベースの訓練ルートを提供する——教室でのキャリアに興味を持つ退役軍人は、「軍隊から教員へ」プログラムの拡大に伴い、本日からユニークな学校ベースの教職課程のルートに応募することができる。教育大臣ニッキー・モーガンは本日、ブライトン大学がこのプログラムの拡大を担う先導役となることを選択したことを発表した。このプログラムは全国から選ばれた高等教育機関や研究所、学校などとのパートナーシップとともに実施される。

## 4. 養子制度と児童福祉サービスの改善（13件）

3月 7日

▶ **「ティンプソン（Timpson）：“ケアからの自立憲章（‘care leavers’ charter’）” にサインする協議会が記録的な数に」**——全イングランドで123の協議会が「ケア自立憲章」にサインした——“ケアからの自立憲章”とは、若者に彼らが25歳の誕生日に達するまでに包括的なサポートやアドバイスをしてケアから自立させることを誓約するものである。2012年10月に子ども・家族担当大臣エドワード・ティンプソン（Edward Timpson）によって導入されたこの憲章は、ケア施設から自立した人たちがその地方当局からどのように扱われ、どのような支援がなされるか期待すべきかを明確に設定している。また、これは自分たちが最初に暮らした家に独立した大人として引越したり、彼らが必要な実践的な支援を指摘したりと、若者をケアから自立することに直面させるユニークな挑戦としても認識されている。

4月 4日

▶ **「新しい養子縁組機関が300人以上もの里親希望者を魅了」**——新しい機関が養子縁組を待っている子どもたちに安定した愛情のある家庭を探す——本日、

里親を希望する人たちを勇気づけるために政府が用意した1千6百万ポンドの一部として、新たなボランティア養子縁組機関が業務のためにそのドアを開けた。機関は、弱い立場で養子縁組を待っている子どもたち、特に配置が難しい子どもたちのためにも安定した愛情のある家庭を探し、最初の3年間で100組以上もの里親希望者を募集するとしている。

- 4月14日 ▶ **「この12カ月で9万6千人もが養子情報サービスを利用」**——統計は養子縁組に関心をもつ人の数の増加を示している——弱い立場の子どもに安定した愛情のある家庭を与えることに関心を持つ9万6千人以上の人々がこの12カ月間でFirst4Adoptionにコンタクトをとった。新規のコンタクトは1日平均327件である。政府が出資した情報サービスのFirst4Adoptionは深刻な里親不足とそれに伴う子どもたちに愛情のある家を探すことの遅れに対処するように設定された。この機関は養子縁組に関する明確かつ公平なアドバイスを提供するとともに、人々を地元の養子縁組機関との関係をとりもつ。
- 4月24日 ▶ **「政府初、里親に優しい職場」**——教育省は政府ではじめて里親家庭に優しい職場となる——里子を持つ職員に仕事とケアの責任のバランスを取りながら特別な支援を与えることで、教育省は政府初の里親家庭に優しい職場となる。本日より教育省で働く里親、および祖父が孫を一時的に面倒見るなど、家族や友達の子どもたちをケアするものも同様に、ケアするものとしての役割に関する訓練や会合に参加するために一時的に職場を離れる際、20日間までは有給となるような措置がなされる。
- 5月29日 ▶ **「養子制度に関する全面的な見直しに新ルール」**——養子縁組をスピードアップし、子どもたちに安定した愛情のある家庭を遅滞なく提供することを確実にするための新しいルールが7月に導入される——養子縁組が15%も向上した2013年の成功に基づき、本日新しいルール変更が告知された。それが導入されれば、少数民族の子どもや黒人の子どもたちの養子縁組の遅滞は減り、里親希望者に自分たちに適した子どもたちを見つけるためのより積極的な役割を与えることになる。
- 6月26日 ▶ **「養子を受け入れた家族に2百万ポンドの特別支援」**——素晴らしい支援サービスにアクセスすることによって養子が新しい家族に落ち着けるよう支援する2百万ポンド以上の新しい補助金が本日から交付される——全国で10の協議会が、洗練されたセラピー・サービスに必要な時に必要なだけ簡単にアクセスできるようにするなど、新しい養子支援補助金の運用を試運転する。子どもたちは家族の一員となることで充実した社会生活や良い教育、明るい未来を開発できるなど十分すぎる利益を得ることができるだろう。
- 7月28日 ▶ **「ケアの庇護を受けている子どもたちの養子縁組に2千万ドルの基金」**——ケア施設から養子になった子どもたちから特別に1万人が、ピューピル・プレミアム (Pupil Premium) の資金からの恩恵を受けられる——およそ1万人近くのケアから養子になった児童・生徒が学校生活で必要な支援を受けられるようピューピル・プレミアムから特別費として2千万ポンドが拠出される。一人当たり1,900ポンドとなる増資は全英の児童・生徒の学力の差を埋め、児童・生徒の将来の人生におけるチャンスを転換することに役立つだろう。
- 9月25日 ▶ **「成人した養子は今後は自ら家系をたどれる」**——子ども、孫、他の親類縁者で成人したものは自分たちの家系をたどることができる——今日導入された新ルールの下で家系をたどることで、彼らの家族の歴史を発掘することができるとともに、彼らの医学的背景についての詳細も発見することができる。さらに長い



- 間行方不明の親戚に手を差し伸べることができる。
- 9月30日 ▶「**養子の数が記録的に増加**」——レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーのコミュニティによる弱い立場の子どもたちへの「無私の献身」に大臣が感謝——レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー（訳注：それぞれの頭文字をとってLGBT）のカップルと個人による養子縁組の数が昨年の480組を大きく超え、この12カ月で過去最高となった。
- 11月 4日 ▶「**大臣から心からの感謝を里親に**」——全英の里親たちは子ども・家族担当大臣エドワード・ティンプソンの個人的な感謝の手紙を受け取った——我が国でもっとも弱い立場にいる子どもに対する愛情とケアへの関与に対して、子ども・家族担当大臣エドワード・ティンプソンは個人的な感謝の意を記した書簡を全英の里親たちに送った。全国養子週間の期間中に里親たちに書かれた手紙には、どんな支援のどの段階でも可能にしてくれる彼ら里親たちの養子たちに対する惜しみない愛情と奉仕に対する心からの賞賛が書かれている。
- 11月15日 ▶「**里親家族に対する1千9百万ポンドの支援が決定**」——全英の里親家族が子どもたちの新しい家族への定着に役立つ新しい基金が作られた——10の協議会で試行し、その結果著しく成功した養子支援基金が2015年5月から全英規模で実施される。この基金は養子家族への支援、特にセラピー・サービスに利用される。例えば、思春期などの特別なライフ・ステージでこの子どもたちが新しい家に腰を落ち着けることを妨げられたりするなど、養子となった子どもたちの多くは、現在の永久的な家族に配置される前に、困難でトラウマになるような経験をしてきている。
- 12月24日 ▶「**料理研究家のロレイン・パスカル（Lorraine Pascale）が新しい養子大使に**」——ロレイン・パスカルはキッチンと同じだけの情熱と献身をわが国で最も弱い立場にいる子どもたちに捧げる——本日2014年12月24日、料理研究家で多くの著作も出版しているロレイン・パスカルが政府公認の初代養子大使に就任することになった。生後18カ月で養子となったロレインはその名人芸的なベイキング・スキルで大変有名だが、彼女の子どもの時代についてはとてもオープンでかつ誠実な対応をしており、養子と里親への支援をより良いものにしようと激しいキャンペーンを展開してきた。
- 2月20日 ▶「**養子支援基金1万ポンドが160以上もの家族を援助**」——子どもたちが新しい家に落ち着くのに役立つ本質的なセラピー・サービスの恩恵を全国の家族が受けられる——政府の新たな基金のおかげで、全英で160もの養子縁組をした家族がその恩恵を受けられる。養子となった子どもたちの多くが、以前にトラウマになるような困難な経験をしてしまっているため、新しい家庭になかなか馴染まなかったり、また思春期などの特別なライフ・ステージの時に様々な困難を作り出したりしてしまう。この本養子支援基金を基にした本質的なセラピー・サービスはそういった問題を抱えている家庭を援助する。

## 5. 0から5歳児までの教育の質向上（11件）

- 3月28日 ▶「**多忙な家族と保育士のための支援を**」——教育・チャイルドケア大臣エリザベス・トラス（Elizabeth Truss）は全国のチャイルドケアに新しいオプショ

ンを増やすと発表——本日教育・チャイルドケア大臣エリザベス・トラスが発表したこの方策で、多忙な家族は育児費を節約することができるようになるだろう。この20年、保育士の数がほぼ半減していることを受け、保護者に高品質なサービスの提供を目指し、政府は自らの家庭での育児のために多忙にならざるをえない保育士の彼らが必要な支援や訓練、アドバイスなどを与えることで、その重荷を取り除く計画を発表した。

- 6月12日 ▶「**子どもセンター（Children's Center）の支援する家族数増加**」——先ごろの研究発表によると、子どもセンターを利用する家族の90%以上が何らかの支援を必要としていることがわかった——昨年100万人以上の保護者が子どもセンターを通じて、家族生活全般に関するすべての局面においての支援や援助を受けた。今日発表になった報告書によると、その圧倒的多数の家族は高品質で、目的に応じたサービスにアクセスできているという。
- 9月 3日 ▶「**チャイルドケア・スキームへの補助金が100万ポンドを記録**」——チャイルドケア・ビジネス補助金は新規チャイルドケアビジネスに100万ポンドを分配した。そして、その効果は確実に出ている——新進保育園の所有者あるいは保育士たちは、100万ポンドを自らのビジネスを安定するものにするために役立てることが推奨される。保育事業助成金制度は、独自の保育事業を設定したい自営業者の、例えば保育士のトレーニング、施設・設備の充実などをサポートするために利用可能である。本日、この制度により100万ポンドが拠出されたが、追加でさらに100万ポンドが用意されている。
- 9月 9日 ▶「**早期教育を受けた子どもはGCSEで比較的高い成績を修める**」——本日発表になった研究によると就学前教育を受けている子どもの方がより高い成績を修めたり、より高い賃金を稼ぐ機会を得ていることがわかった——「効果的な就学前教育、初等学校、中等教育（The Effective Pre-School, Primary and Secondary：EPPSE）」に関する研究報告書によれば、就学前教育を受けた子どもはそうではない子どもと比べて生涯賃金に2万7千ポンドの差があるという。さらに彼らはGCSEの成績でも良い結果を修める傾向にある。
- 10月16日 ▶「**子どもたちが最高の人生のスタートをきるために保育士はもっと尽力を**」——チャイルドケアと教育担当政務官サム・ジイマー（Sam Gyimah）は子どもたちが未だいい進歩を示していないという統計結果を受けて、保育士たちにしかるべき対応を求めた——本日発表された統計は、未だほとんどの子どもが就学準備ができていないという事実を示している。それを受け、保育士および他の育児関係者は乳幼児がもっと学べるよう支援すべきである、とチャイルドケアと教育担当大臣のサム・ジイマーは述べた。統計によれば、5歳児の段階で、およそ60%の子どもが早期教育段階プロフィールに対してよい進歩を示している。これに対し、経済的に恵まれない地域に住む子どもたちとそうではない子どもたちとのギャップはおよそ12%もあり、改善されないままである。
- 10月23日 ▶「**早期教育のピュービル・プレミアムは一人につき300ポンド**」——学校、保育士、チャイルド minder は低所得者層の3歳から4歳の子どもがその後の学校教育で落ちこぼれにならないように、一人の担当につき300ポンドが支給されることになった——総額5千万ポンドの早期教育のピュービル・プレミアムは、低所得者層の出身者とそうではない子どもたちとの間の学業達成度の間のギャップを解消し、彼らの将来が成功するような道を作ることを目的にデザインされている。
- 10月28日 ▶「**全英初の認定取次所がチャイルド minder の選択を支援**」——ボルトンの

聖ビード・アカデミー (St. Bede Academy) は認定を受けた最初のチャイルドマインダー取次所——イギリスで初めて認定を受けたチャイルドマインダー取次所 (childminder agency : CMA) は、家族が自分たちの労働時間やニーズに特化した第一級のサービスを探すのに役立つだろう。チャイルドマインダーが病気になる保護者は、このたび全英初の認定を受けたボルトンの聖ビード・アカデミーのおかげで緊急の対応を受けることができるだろう。

- 1月29日 ▶ **「地域の保育所との協働事業で学校に500万ポンドの補助」**——チャイルドケアと教育担当政務官サム・ジイマーは早期教育の質を改善するための補助金を発表——全英の子どもたちは、早期教育の質を向上することを目的とした政府の500万ポンドの補助金のもと、人生のスタートを最上の状態でスタートすることが出来る。本日発表された補助金は、地域の保育所とパートナーシップを結び水準を向上させ、良い取り組みを共有しようとする60以上ものティーチング・スクールに与えられる。すべてのパートナーはお互いからよりよい早期教育や子ども・家族のケアを実現するために学ぶことができ、同時に、保育所から学校へ効果的な橋渡しを支援することができるようになる。
- 2月 6日 ▶ **「保護者のチャイルドケア検索を簡便なものにする新しいオンライン・ツール」**—— Ipsos MORI (訳注：全英2大市場調査会社のひとつ) の調査は、保護者の多くは自分たちの地域の保育規定にはあまり意識していないことを示している——新しいオンラインツールを使って、これまででない、保護者に良質な手頃な価格でアクセス可能な育児情報を与える計画が進められている、と子ども担当大臣サム・ジイマーは述べている。現在、非常に多くの情報が溢れているにもかかわらず、保護者は自分の地域の保育に関する情報を得るためには巨大な労力を駆使しなくてはならない。費用や場所などの単純な情報を得るのはもちろんのこと、保護者や家族が最良の判断にいたるために保育所や児童福祉施設、乳母、チャイルドマインダーなどのチャイルドケアの異なるタイプが、一つにまとまるというのは、非常に難しくなっている。
- 2月13日 ▶ **「早期教育のピューピル・プレミアムに追加の補助金を用意」**——チャイルドケアと教育担当政務官サム・ジイマーは早期教育のピューピル・プレミアムを導入するための準備として、各協議会に新たな補助金を用意したと発表——2015年から16年にかけて5千万ポンドが投入される早期教育のピューピル・プレミアム (the early years pupil premium : EYPP) では、3歳児から4歳児への早期教育を施す団体に割り当てられる。ある一定の基準を満たす、恵まれない環境の子どもたちには、追加で年300ポンドが補助される。
- 2月26日 ▶ **「大臣の目的はチャイルドケアの分野における社会投資の新しい文化を構築すること」**——チャイルドケアと教育担当政務官サム・ジイマーは政府の補助金の増額を引き出しチャイルドケアの分野に社会投資を促す計画を発表——飢えにあえぐチャイルドケア市場は、教育省主導の新しい社会投資の文化によって改善されるだろう。チャイルドケアの需要は、政府が3・4歳児および低所得者層の2歳児の40%の無料ケアを15時間制にした後でも、全時間帯において常に高い。

## 6. アカデミー、フリー・スクールの増設 (9件)

- 4月11日 ▶ **「失敗校から2年で傑出したアカデミーに転換」**——アウトウッド・アカデ

ミー・ポートランド (Outwood Academy Portland) はいかにアカデミーの自由をうまく利用した特別活動を生徒の達成度改善に結びつけたのか——2年前全国でも有数の失敗校だった学校が、今ではOfstedも優秀校と認めるほどになった。これまでも最速の転換例の一つである。アウトウッド・アカデミー・ポートランドの校長、フィリップ・スミス博士 (Dr. Philip Smith) は学校がアカデミーに転化したことを機にコア教科の到達度に焦点を当てる方針を見直したことも成功の要因の一つであるが、最も貢献しているものは唯一現在提供している膨大な量の特別活動であると言う。これが学校を子どもたちがそこにいたいと思うような場に変えたのだ。

- 4月15日 ▶「**保護者が群れをなしてフリースクールへ**」——教育省が実施した調査によると、少なくともフリースクール3校の申請書を集めている保護者が極めて多いことがわかった——教育省は開校済みのフリー・スクール全校で入学状況について調査を行った。110校の回答のうち、95校が次年度の受入可能定員学籍数よりも多い入学申込書を保護者から受け取っていることがわかった。全体で8,755名の定員のところ、23,452人の申し込みだった——平均すると定員1に対して2.7である。また統計では、10校のうち9校以上の初等段階のフリー・スクールで、定員よりも多い申請を受けている事がわかった。今年開校したウェスト・ロンドン・フリー・スクール・プライマリ (West London Free School Primary) は、160人の定員のところおよそ6倍の申込受付を行ったと報告している。
- 6月4日 ▶「**学校委員 (the School Commissioner) がエセックスに、より多くの学校をアカデミーに転化することを提案**」——学校委員会はエセックスの学校に、水準を上げるためにアカデミーへの転化を考慮したらどうかと提案した——イングランド学校委員会はエセックスの教育水準を上げるために優秀校にアカデミーへの転化を考慮することを呼びかけた。非常に成功を果たしたアカデミー・チェーンを5年間運営してきたフランク・グリーン (Frank Green) 氏は、今朝コルチェスターにてアカデミーになることの優位性を校長や理事たちと議論した。さらに既存のアカデミーの次なるステップやアカデミーのスポンサーになって他の弱小学校の転化を援助することについても議論を重ねた。統計は、エセックス州議会や学校が生徒たちの利益のためにどのように政府のアカデミー・プログラムを採用しているかを示している。
- 6月19日 ▶「**新設学校によってフリー・スクールの学籍定員数が全部で17万5千に**」——教育大臣が新たに38校のフリー・スクールの新設を認めたことにより、全英で2万2千人の定員増となり、水準の向上が見込まれる——2万2千人を定員とする38校のフリー・スクールが、本日教育大臣マイケル・ゴヴによって認可された。フリー・スクールは、地方コミュニティの要望に対する反応として保護者、教員と慈善団体によって設立された新しいタイプの学校である。本日の発表で、現在開校している認定のフリー・スクールは全部で331校、全体で17万5千人の学籍定員数の増加をもたらした。
- 7月1日 ▶「**学校委員はダービーシャーに、より多くの学校をアカデミーに転化することを提案**」——学校委員会はダービーシャーの教育水準を向上するために、優秀校にアカデミーになることを促した——本日、学校委員会のフランク・グリーン委員は、全英でアカデミーに転化した学校がどのように教育水準を向上しているのかに注目した最新の統計をもとに、アカデミーに転化することで得られる利益を考慮するよう、多くの学校に求めた。木曜日に開催されるアカデミーのスポ

ンサーになることを検討している企業等が集まるイベントに先立ち、グリーン委員は地域のアカデミーの強力なパフォーマンスが、地方議会のコントロールを超えて何をどこまで到達することが出来るのかということを示すのだと述べた。現在ダービー州にはアカデミーが17校あり、そのうち14校が中等教育段階のアカデミー（2校がスポンサー付き、12校が転化校）で、初等教育段階のアカデミーは3校だけである（すべて転化校）。アカデミーの数は、わずか1校しかスポンサー付きではなかった2010年から着実に増加している。

- 7月 9日 ▶「**アカデミーは水準向上や革新のために自由を享受**」——3部作の報告書はアカデミー・プログラムがうまく機能していることを示している——アカデミーの校長の多くが、地方当局のコントロールを離れたことで教育水準が改善されたと結論づけていることが新しい調査で明らかとなった。2013年5月に開校した700校以上ものアカデミーが、カリキュラムの見直しや時間割、授業時数など水準向上と革新のための自由をどのようにどの程度までの範囲で使っているかという初めての調査に回答した。調査では、以前失敗校だった学校が、強力なスポンサーに運営が引き継がれたことによって、その再開の際にどれだけ高い要求があるかを明らかにしている。
- 9月 1日 ▶「**2010年以降、前例のないほどの数の学校が開校**」——統計は、学校の質改善のためにデザインされた改革の程度を明らかにした——新たな調査によると、政府は2010年以降、前例のないほどの数の学校の新設を認可した。全英でおよそ20万人もの定員増となる400校以上のフリー・スクールやテクニカル・スクールも認可されてきた。これらの学校は保護者の学校選択の幅を増やし、軒並み水準の向上に役立つなど、政府の教育計画の重要な部分である。
- 10月22日 ▶「**学校統計は政府の教育計画が与える衝撃を明らかに**」——2010年以降、フリー・スクールへの申込みが過去最高を記録し、スポンサー付きのアカデミーが1,000校を突破——2010年の政策実行以来、今年、単年度では過去最高の350以上ものフリー・スクール新設申請が保護者、教員、慈善団体からなされた。これは、より多くの生徒が、成長を続ける革新的な学校によって支えられる良質な教育を受けることが出来る、ということの意味する。さらに2010年以降、そのほとんどが教育困難校であるが、1,000校以上もの学校が強力なスポンサーによって教育改善に向けて援助を受けている。専門家とともに教育改善に取り組み、将来への目標を意識させ、彼らの潜在能力を發揮するチャンスを以前より多くの恵まれない地域に暮らす若者達に与えられるよう、全部で1,042校もの学校がスポンサー付きのアカデミーに転化した。
- 10月29日 ▶「**2万2千以上もの学籍定員を供給する35校のフリー・スクールの新設が発表**」——フリー・スクールの校長に関する調査と同時に学校新設が発表——教育大臣ニッキー・モーガンは全英で新たに2万2千以上もの学籍定員を追加するフリー・スクール35校の新設を認可した。学校の新設は保護者に学校選択の幅を広げ、軒並み水準の向上につながるなど政府の教育計画の重要な部分を占める。フリー・スクールの校長に言わせれば、フリー・スクールの存在自体が近隣の学校の水準向上に役立っているというが、実際の統計でも、フリー・スクールが主流の教育に与えた肯定的な影響が明らかにされたことを受け、上記の措置が発表された。



## 7. 授業態度と出席状況の改善（8件）

- 3月25日 ▶「**13万人弱の生徒が恒常的に学校を欠席**」——新たな調査によると、恒常的な欠席はおよそ3分の1に減少した——本日発表された新たな調査によると、出席向上及び授業態度改善のための政府の改革のおかげで恒常的な欠席はおよそ3分の1に減少した。
- 6月16日 ▶「**学校で問題となっているメンタル・ヘルスへの対応ガイダンス**」——新しいガイダンスは教師たちにひどい精神状態が引き起こす振る舞いを特定するのに役立つだろう——本日、政府が発表した新しいガイダンスは教師たちに若者たちのメンタル・ヘルスの問題を明らかにし、特定するのに役立つだろう。これは誤ってトラブル・メーカーとレッテルが貼られる生徒が少なくなることを意味する。教育子ども担当大臣エリザベス・トラスは、このガイダンスはメンタル・ヘルスの問題をかかえた生徒にとって、その早い時期に適切な支援を求めることが明確になることの助けになるだろうと言う。2012年のメンタル・ヘルス・センターの報告書は、5歳から16歳の生徒たちの中で、およそ15%が、将来深刻な問題を引き起こす危険性をもつメンタル・ヘルスの問題を抱えていると見積もっている。
- 7月31日 ▶「**2010年以降、退学処分になった生徒は何千も減少**」——新たな退学調査は、校長に躰を強制する権力を与えたことが作用していることを示している——本日発表された統計によれば、政府の生徒指導の強制における校長の権限の強化策によって、2010年以降退学処分になった生徒は何千人も減少したことがわかった。
- 10月15日 ▶「**恒常的に授業を欠席する生徒がこれまでの最低を記録**」——学校出席率が軒並み記録更新——本日発表された統計が明らかにしたところ、恒常的に授業を欠席する生徒の数が減少した。2006年の調査開始時と比べると生徒の出席状況は改善されている。多くの生徒が恒常的に学校に出席することは政府の教育計画の重要な部分であり、よい出席状況は彼らの学校生活と将来の人生の両方における成功を確約させるのにとっても重要である。
- 11月 6日 ▶「**教育省とWWE（訳注：アメリカのプロレス団体）は、生徒間のいじめの撲滅を促す**」——ロンドンのアカデミーはアンチいじめ週間に先立ち特別集会を企画・運営した——子ども・家族担当大臣エドワード・ティンプソンは、子どもたちを勇気づけ、いじめを撲滅するためにWWEの3人のスーパースターとステージで共演した。昨日、エドワード・ティンプソンはロンドンのアーク・グローブ・アカデミー（Ark Globe Academy）で100人以上の子どもたちと特別集会で演説を行った。彼はいじめが何をもたらすかその結果を説明し、それに対処するために何が出来るか議論した。この議論に今週、UKツアーに参加していたWWEのスーパースター、コフィ・キングストン（Kofi Kingston）、ペイジ（Paige）、そしてビッグE（Big E）が参加した。WWEは社会貢献の一環として、寛容と尊敬を示すことを促すBe A STARと呼ばれるアンチいじめキャンペーンを展開しており、通常、同様の集会をアメリカでも行っている。
- 11月16日 ▶「**いじめ数千件減少 画期的な研究で明らかに**」——中等教育の生徒を対象に——アンチいじめ週間が始まるにあたり、教育大臣ニッキー・モーガンは教師と慈善団体、保護者の努力を賞賛した。彼女は同時に彼らに将来のいじめを減少

させるよう「モラル・ミッション」の継続を促した。保護者にとって、いじめは、学校で起こっている出来事で最も関心のある問題であると考えられていると認識しているからだ。この画期的な研究は、この種のものの中では最大規模のひとつで、2013年から2014年の13歳児の数万人のコーホートを2つ含む。

- 11月17日 ▶ **「政府、インターネットの悪用に対応できるよう教師を支援」**——政府はネットいじめ（cyberbullying）に対する教員への支援のガイダンスを出版した——学校のスタッフがネットいじめから自らの身を守る方法を説明する教員対象の新たなアドバイスが本日、教育大臣ニッキー・モーガンから発表された。これは学校のスタッフが、自分の生徒たちが行なうのと同じように、自らの身もネットいじめにさらされる危険性があるという明らかなメッセージである。アンチいじめ週間の一部として告知されたこのアドバイスは、教師たちをインターネットの悪用から身を守るのに役立つだろう。
- 2月22日 ▶ **「短期間でも欠席は若者の将来にダメージ」**——生徒の欠席と試験結果データに関する研究は、出席状況と達成度の間に相関関係があることを明らかにしている——たとえ短期間であっても学校を欠席すればそれだけ成功のチャンスが減少し、およそ4分の1になってしまうことが、本日公表された研究結果で明らかになった。生徒の欠席率とGCSE、初等学校テストでの結果とに基づいた研究は、定期的に学校に出席し、最終的には現代のイギリスで成功するために必要な資格から逃げないように、生徒たちをなるべく欠席させないことの重要性を強調している。

## 8. 特別支援教育の改善（6件）

- 5月 1日 ▶ **「特別な教育的ニーズと障がい（Special Educational Needs and Disability : SEND）を持つパスファインダー・チャンピオンから子どもや若者は恩恵を受ける」**——SENDパスファインダー・チャンピオンから150万人以上もの子どもや若者が恩恵を受けるだろう——全英の福祉協議会のグループは本日、政府のSEND改革でパスファインダー・チャンピオンとして発表された。チャンピオンは隣接する協議会の改革を手伝う。そこでは何千もの家族により彼らが受ける支援を超えたより大きなコントロールを行う。
- 6月11日 ▶ **「SENDとクラス家族支援のために福祉協議会へ新基金」**——福祉協議会はSEND支援のオーバーホール準備に4千5百万ポンドを共有——SENDの30年で最大の改編にむけて、福祉協議会は新基金から4千5百万ポンドを受託する。この新たな資金は、福祉協議会が若者と保護者に個別のケアに対するより大きな発言権を与えたり、援助を与えたりするのに使用される。同時に、この資金は25歳までのSENDの子どもと若者のためのシステムを入れ替えるためにも使われる。
- 8月15日 ▶ **「SENDの急進的な改革は保護者の被支援感情を引き起こす」**——本日出版された報告書によれば、現在政府が試運転しているSENDの新しいシステムはこれまでになかったほどの被支援感情を引き起こす——この9月から導入された新しい支援に関する独立報告書によると、その方法はすでに子どもたち、若者、家族の生活に明確な違いを生み出している。

- 9月 1日 ▶「**特別な教育的支援が必要な子どもや障がいを持つ子どもに対する教育改革が実現**」——特別な教育的支援が必要な子どもや障がいを持つ子どものための教育改革が9月1日月曜日に法制化——新しい子ども・家族法はSENDの子どもや若者によりシンプルにかつ改善向上した一貫性のある支援を提供することになる。学校財政の枠組みを守りながら、支援の対象は誕生から25歳までとなる。このことは家族が様々な支援の中から最適なものを選択したり、ニーズの確認するのに非常に有効だろう。新しい教育、健康、ケア・プランによって導入されたこの新しい教育システムは、若者の権利と保護を広げるだろう。専門家も家族に必要な支援・援助と同時により仕立てられた支援を提供することになる
- 12月17日 ▶「**3千170万ポンドを人生を変えるSEND改革に**」——新しい特別な教育的ニーズのシステムを実行するために地方当局に数百万ポンドを注入——教育省は本日、2015年から2016年にイングランドの地方当局がSEND改革を継続できるように追加の財政支援として3千170万ポンドを投資することを発表した。
- 1月12日 ▶「**大臣は特別な教育的ニーズを持つインターンを賞賛**」——子ども・家族担当大臣エドワード・ティンプソンは先駆的なエンプロイアビリティから恩恵を受けている若者との会合のため、ナショナル・グリッド社を訪問した——特別な教育的ニーズと障がいをもつ若者のグループは、学校から職業世界への移行を支援する先駆的なインターンシップの取り組みから恩恵を受けている。彼らは子ども・家族大臣のエドワード・ティンプソンとともにその成功を分かちあった。エンプロイアビリティ・スキームは、ウォリックシャーのロイヤル・レミントン・スパにてナショナル・グリッド社によって運営されている。このスキームで、最終学年のSENDの学生12名は職場で必要なスキルを学び、仕事に向けての自信を獲得する。参加者は顧客とのやりとりやナショナル・グリッド社のソーシャル・メディア・チャンネルでの作業など、いろいろな機会を通じて経験を積んだ。

## 9. 恵まれない子どもの到達度の向上 (5件)

- 11月11日 ▶「**恵まれない初等学校の児童の支援に追加で2千2百50万ポンド**」——学校担当大臣デビッド・ロウズは2015年から2016年のピューピル・プレミアムが総額2億5千450万ポンドであることを確認した——本日、学校担当大臣デビッド・ロウズが明らかにしたところによると、恵まれない初等学校の児童は、そうではない児童とのギャップを埋めるために投入される2千250万ポンドの補助金から恩恵をうけることになるという。2015年から2016年にかけての初等学校へのピューピル・プレミアムの増資はまさにこれから学校生活を始めようとする児童が遅れを取らないように支援する教師に追加の資源を供給するだろう。
- 12月 8日 ▶「**2015年ピューピル・プレミアム・アワードの特別支援学校ファイナリスト**」——学校担当大臣デビッド・ロウズは2015年のアワードの特別支援学校およびオルタナティブ部門のファイナリストを発表——本日デビッド・ロウズ学校担当大臣によって、2015年のアワードの特別支援学校およびオルタナティブ部門のファイナリスト5校の名前が発表になった。これらの5校はその教育力でいずれも恵まれない子どもたちの学業における成功が著しいものであった。すべてのファイナリストは少なくとも5万ポンドの賞金を得る。そして最優秀校に選ば

- れた暁には、総額10万ポンドの報奨金が、来年の3月に副首相ニック・クレッグが主催するセレモニーで与えられる。
- 12月11日 ▶ **「2013年以降、2万2千人の児童・生徒たちの読み、書き、算数が向上」**  
——初等学校における恵まれない子どもとそうでない子どもとのギャップが解消中——初等学校のどの教科目においても成績が向上しており、恵まれない子どもとそうでない子どもとのギャップは解消中である——本日発表になった初等学校テストの結果はそう示している。50万人以上もの11歳児（キー・ステージ2）の読み・書き・計算（3Rs）の結果は、もう少し挑戦レベル（レベル4b）は63%から67%へと上昇する一方、期待すべきレベル（レベル4）への到達度の割合が3%上昇し79%となった。本日発表になった統計は、新しいより厳しい規準で判定されていても、平均以下の初等学校の数はいくらも減っていないことを示している。
- 12月18日 ▶ **「ピュービル・プレミアム・アワード2015では430校の初等学校が受賞」**  
——学校担当大臣デビッド・ロウズは、2015年度のピュービル・プレミアム・アワードでのキー・ステージ2およびキー・ステージ3のファイナリストを発表した——本日、デビッド・ロウズは先週発行されたキー・ステージ2の試験結果に基づき、2015年度のピュービル・プレミアム・アワードの受賞資格を得た430校を讃えた。これらの学校では、恵まれない子どもたちの成績に対し絶え間ない改善努力を続けてきた。どの学校も1,000ポンドを獲得し、総額10万ポンドの各賞に申請することができる。最優秀校は副首相のニック・クレッグが来年3月に開催するセレモニーで表彰される。
- 2月 5日 ▶ **「ピュービル・プレミアム・アワード2015で表彰される中等学校」** ——本日、学校担当大臣デビッド・ロウズは、恵まれない子どもたちの成績改善に寄与し、5千ポンドを獲得した140校もの学校を讃えた。140の中等学校は先週発行されたキー・ステージ4のテスト結果に従って選ばれた。各学校は最低でも5千ポンドを獲得し、総額25万ポンドの各賞に申請することが出来る。最優秀校は副首相のニック・クレッグが来年3月に開催するセレモニーで表彰される。

## 10. 校舎の費用対効果向上（5件）

- 6月24日 ▶ **「およそ10人に9人が第一志望の初等学校に入学」** ——今年度、およそ88%の家庭が第一志望の初等学校の籍を確保し、85%の家庭が第一志望の中等学校の籍を確保——本日教育省が発表した公式統計によると、イギリスの54万6千の家庭（88%）が第一志望の初等学校の籍を確保、44万4千の家庭（85%）が第一志望の中等学校の学籍を確保したことがわかった。
- 9月24日 ▶ **「大規模改修したワットフォード（Watford）の学校が再開校」** ——政府の緊急学校校舎建築プログラムの一部として5百万ポンドをかけた改修から児童・生徒と教師たちは恩恵を受ける——連立政府の緊急校舎建築プログラム（Priority School Building Programme : PSBP）の一環として大規模改修したワットフォードの特別支援学校が本日、公式に開校セレモニーを実施した。イギリスの最悪な状況にある261校を2億4千万ポンドを投じて改修するプログラムの一部として、ガーストン・メイナー・スクール（Garston Manor School）は老

- 朽化した建物を完全に改修した。
- 10月 9日 ▶「**ハートルプール (Hartlepool) の学校で建築事業が進行中**」—— 2億4千万ポンドの初等学校校舎建築プログラムの重要なマイルストーンを示す—— ハートルプールの2校、メイナー技術カレッジ (Manor College of Technology) とバーナード・グローブ初等学校 (Barnard Grove Primary School) が公式な芝刈りセレモニー (turf cutting ceremony) を開催した。これからこの2校の建物は連立政府の緊急校舎建築プログラム (PSBP) の補助を受け改修工事が施される。両者の老朽化した校舎はイギリスの最悪の状況にある261校を改修する2億4千万ポンドのプログラムによって完全に改築される。
- 11月 14日 ▶「**1千550万ポンドをかけてニューアーク (Newark) の学校改修へ**」—— PSBPの2億4千万ポンドからの補助を受ける—— ノッティンガムシャーのニューアーク・アカデミー (Newark Academy) は先週芝刈りセレモニーを開催、これから老朽化した建物の改修が始まる。
- 2月 12日 ▶「**1億6千万ポンドをかけすべての子どもを学校に**」—— 2018年9月までに学籍を新設するための地方への補助金割当の詳細が発表—— 本日、教育大臣ニッキー・モーガンおよび学校担当大臣デビッド・ロウズは、全英に何千もの学籍を新設するために1億6千万ポンドをどのように投資するかを発表した。

## 11. ソーシャルワーカーの支援 (4件)

- 6月 20日 ▶「**弱い立場にいる子どもたちを支援する地方当局に新たな自由を**」—— 弱い立場の子どもたちの支援のためにイノベーションを起こしたり、よりよい結果を出したりするための新たな自由が地方当局に与えられる—— 新しい法律の下、地方当局は子どもたちへのソーシャル・ケアを提供するために、コミュニティに関心のある企業や他の非営利団体など相互にソーシャル・ケアの機能を委任することができるようになる。ソーシャル・ケアの機能の権限委譲に対する政府の対応に関する詳細が、本日明らかにされた。
- 7月 31日 ▶「**子ども・家族のためのソーシャル・ワークの青写真が明らかに**」—— 子ども担当ソーシャル・ワーカーは、将来のソーシャル・ワーカーの訓練に関する青写真を発表、必要とされる知識と技能を明らかにした—— この世代の専門職として最も重要な変革の一部として、子ども・家族のソーシャル・ワーカーのこれからの訓練と教育についての青写真が本日子どものソーシャル・ワーカーのチーフ、イザベル・トロウラー氏 (Isabelle Trowler) によって明らかにされた。今回はじめて、ソーシャル・ワーカーが持つべき知識と技術がひとつの場所に明確にされ、専門職養成の全面改訂を議論するチーフ・ソーシャル・ワーカーの舵取りの礎となる働きをする。
- 8月 8日 ▶「**子どものソーシャル・ケア・イノベーション・プログラム**」—— 政策文書「子どものソーシャル・ケア・イノベーション・プログラム」が本日発表された—— この文書は子どもへのソーシャル・ケア・サービスから援助が必要な子どもたちを支援するために、様々な開発や試験、効果的な方法の共有などを支援することを旨とするプログラムである。
- 2月 19日 ▶「**薬物・アルコールに関する家庭裁判所が全国規模に**」—— 政府の250万ポ



ンドの援助のおかげで、薬物乱用やアルコールの影響を受けた家庭を救う裁判所が新しい地域に開設——薬物・アルコールに関する家庭裁判所（The Family Drug and Alcohol Court : FDAC）の目的は家族内の中毒者を可能な限り家族と一緒に暮らさせながら、保護者やソーシャル・ワーカー、そしてドラッグ・アルコール乱用の専門家と連携し、それらと闘っていくことである。もしこれが不可能であれば、少々問題はあっても、子どもたちに永続的で愛情のある安定した家庭を見つけるための素早い意志決定を行うことを目的とする。

## 12. すべての子どもに健康な生活を（3件）

- 3月 6日 ▶「**幼児の無償学校給食制度実施まで残り6カ月**」——政府はすべての幼児に無償で学校給食を届けるために学校への補助を始める——本日、学校担当大臣デビッド・ロウズによって、すべての幼児に無償で学校給食を届けるために学校を支援するための一連の対策が発表となった。全英の公営学校に通うすべての幼児は、2014年9月から、初めて無償学校給食を得る権利を有することになる。政府はどのように学校を支援していくかすでに計画を設定済である。
- 11月20日 ▶「**学校のメンタルヘルス支援への新たなアプローチ**」——チャイルドケアと教育担当政務官サム・ジイマーは児童・生徒のメンタルヘルスを支援する新しい行動枠組みを策定——メンタルヘルスのケアは学校における新たなビジョンの中心に置かれるべきだとチャイルドケアと教育担当政務官サム・ジイマーは主張する。10人に一人の子どもが診断可能なメンタルヘルス障がいを持っている。本日明らかになった新プランは、若者が必要とする時、重要な支援を得られることを確約するものとなるだろう。
- 11月26日 ▶「**救命器具は何千もの子どもたちに恩恵を与える**」——政府は手頃な価格の除細動器（AED）を導入することを決定——政府は何百台ものAEDマシンの割引交渉を行い、学校に導入することを決めた。その結果、何千もの児童・生徒が救命器具から恩恵をうけることになるだろう。学校は今後、心停止に陥った人の生死を分ける使いやすい低価格となったAEDの購入を選択することが出来る。

## 13. 継続教育とスキル訓練の質向上（3件）

- 4月10日 ▶「**将来のキャリア形成のために企業が学生にアドバイス**」——新しいキャリア・ガイダンスは企業がキャリア形成により大きな役割を演じ、学校にアドバイスすることを期待している——本日発行されたスキル・企業大臣マシュー・ハンコックによる学校のための新しいガイダンスのもと、生徒たちは将来のキャリア形成について、企業やビジネス・リーダーから影響を受けたり、指導されたりするだろう。教育省のガイダンスは学校に対して、生徒たちが自分の能力を最大限に発揮するだけの自信とスキルを身につけられるよう、労働世界の経験を提供するように求めている。このガイダンスでは、数学や科学の資格など将来の雇用の際に企業が求めるスキルを生徒が身につける重要性について重点をおいている。
- 9月26日 ▶「**職業教育に関するウルフ教授のレビュー：政府の反応**」——ロンドン大学キ

ングス・カレッジのアリソン・ウルフ教授を中心に職業教育のレビューが報告された——本文書は、ウルフ教授の答申に対する政府の反応と答申をどのように実現するかという点についてまとめたものである。

- 10月24日 ▶ **政策文書「16歳から19歳のための技術バカロレア基準」本日発表**——本文書は、技術バカロレアに関する基準に基づく資格と2016年から2017年までに導入される補助金に関する詳細について述べたものである。

#### 14. スポーツの推進（2件）

- 9月 9日 ▶ **「PE・スポーツ・プレミアム：学校体育から子どもたちに一層の恩恵を」**——年間1億5千万ポンドのプロジェクトPE・スポーツ・プレミアムは初等教育における学校スポーツの改善・向上に役立っていると研究報告——この1億5千万ポンドのPE・スポーツ・プレミアムのおかげで、10校中9校の小学校で体育の授業の質が向上した、と新たな研究が報告している。2013年に導入されたこの補助金は、直接初等学校の校長に手渡され、生徒のPEやスポーツ活動の向上に資するものならば何にでも支弁することができる。
- 11月 3日 ▶ **「初等学校のスポーツ向上に1億5千万ポンド援助」**——初等学校はPE・スポーツ・プレミアムの一環として、PEの授業改善のために新たに1億5千万ポンドを超える補助金を受託——校長たちはすでにPE・スポーツ・プレミアムの基金を何百人もの特別講師を雇用したり、新たに用具を購入したり、あるいはスポーツ選択の幅をより多く持たせたり、放課後のクラブを無料にしたりといったことに支弁している。10校中9校がこの基金によってPEの授業の質を改善しており、90%以上が子どもの健康、授業態度、生活態度が改善されたと報告されている。またその結果、初等学校の生徒たちがPEの授業に費やす時間が増えた。昨年の平均は、一昨年より13分増え、週平均122分であった。

#### 15. 学校視察制度の効果向上（1件）

- 7月31日 ▶ **「Ofsted新長官が発表」**——デビッド・ホア（David Hoare）が新長官に——教育大臣ニッキー・モーガンはOfsted次期長官としてデビッド・ホアを任命した。現在、ティーンエイジ・キャンサー・トラスト（Teenage Cancer Trust）のホア氏は9月に新しいポストに就任することになる。彼の組織運営の成功および改善の経験は彼を傑出した候補者とした。

#### 16. 貧困の減少と社会正義の実現（1件）

- 6月26日 ▶ **政策文書「対子どもの貧困戦略（Child poverty strategy）2014-2017」**本日発表——この政策は2014年から2017年にかけて、子供の貧困を削減することを目的に実行される。

- 
- 1 内閣府担当大臣と兼務。2001年の初当選以降、自民党の影の内閣で財務省特別委員会をはじめ、影の幹事長、影の雇用年金事務局長、そして最後には影の教育大臣を務めた。
  - 2 2010年11月より当時の学校担当大臣であったニック・ギブの議会担当秘書官、2012年9月から計画担当政務官 (Parliamentary Under Secretary of State for Planning) を務める。
  - 3 2005年から2010年まで保守党影の内閣で教育大臣を務める。2010年5月から2012年9月まで学校担当大臣であった。
  - 4 2012年9月より現職であり継続。
  - 5 2013年1月より現職であり継続。
  - 6 今回初就任。2005年初当選の自民党女性議員。
  - 7 今回初就任。2010年初当選の保守党男性議員。
  - 8 〈<http://www.bbc.co.uk/news/uk-politics-28302487>〉 (最終アクセス日：2015年3月20日)